

地域工芸品のデザイン開発

- 異種材の組合せによる商品の開発 -

工芸・意匠部 平松 茂夫

1. 緒言

今日の消費者嗜好は個性化の進展やモノへのこだわりなどによって、ニーズが多様化しているといわれている。この現状はモノを市場に提供する生産者側から見れば、きわめて捉えにくい曖昧膜糊とした状態といわざるをえない。したがって、商品開発時における消費者感性やトレンドなどの市場分析にもとづくデザインの重要性がますます増加してきている一方、従来の日常的な環境でのモノづくりでは、商品力あるモノを生み出すことがきわめて難しくなっている。

したがって、それぞれの地場産業が持つ素材や技術、ノウハウを複合的に用いることによって、技術面あるいは感性面でのソフト部分を融合化しようとする、新しい視点での活力ある商品化企画が必要である。このような観点から、この開発は地場産業の融合的組織化を推進するとともに、そのコアとなる融合商品の開発を行うものである。今年度はインテリア素材としての商品領域拡大を考慮したミカゲ石と木材の組合せによる家具の開発検討を行った。

2. 内容

県内には筑波山、足尾山、加波山などの山系や笠間市の稲田地区、岩瀬町の阿武隈山系一帯から良質の白系花崗岩が産出される。主な産地としては、真壁地区（真壁町、大和村）、稲田地区（笠間市）、羽黒地区（岩瀬町）に分けられる。採石、石工品に関する企業は62年工業統計によれば127事業所あり、製造品出荷額は673億円で全国で一位となっている。現在生産されている製品は、外柵40%、石塔27%、灯籠11%、他建築用材となっている。これらは墓石需要を中心とし、一部一般住宅庭園用製品である。

近年、高級感を反映してかインテリア素材として、大理石を中心とした石工品が注目を集めている。当産地でも一部の企業では、大型のテーブル等を試験的に生産しているところも見られる。花肉岩は完晶質の深成岩で材質的強度も高く、材質の柔らかい大理石にくらべ、おもにエクステリア商品として用いられているが、ブティック等店舗用什器としての需要も生まれつつある。このような状況を踏まえ、ミカゲ石素材及び加工技術を活用した新しい領域の商品として、一般家庭用家具の開発の方向性について検討した。

ミカゲ石家具の今後の新製品開発の可能性を考慮すると、次のことがいえる。

自然素材へのこだわりや高級感指向への対応によっては、インテリア素材としての可能性が十分考えられる。

材質的には均質な白系黒母花商岩であり、視覚的面白味にやや欠ける点があるが、岩塊周辺部の変成状花崗岩、あるいは異素材との組合せによっては家具素材として応用できる。

集成構造採用等、重量低減の改善策による大型化への対応。

つまり、今後の方向は、軽量対策、染着色対策等の技術開発と並行しながら、インテリア素材としてのデザイン開発、商品開発努力が最も必要である。

商品の基本的なアイテムはミカゲ石によるインテリア指向のリビング・ダイニングテーブルとし、寸法を長さ1,000mm×幅700mm×高さ680mmとした。甲板の部位は稲田産変成白ミカゲ(通称パンダ石)を用い、磨き仕上げとした。脚部、幕板部はウォールナット材を用い旋盤加工とし、ウレタン樹脂による木地色仕上げとした。甲板は一部落し込みとした。

3. 考 察

今回用いたミカゲ石は、他の岩右中に花肉岩が貫入した状態の変成部位のもののため、従来欠陥品として処理されていたもので、原石の段階からクラック等の欠陥が出やすいが、接着材の充填により磨き加工時の圧縮強度に耐えるとともに、商品としての欠陥防止になっている。不均質な白ミカゲの表す石肌は天然の造形パターンを示し、石のもつ冷たさを解消して余ある。さらにウォールナット材との組合せによってソフト感がプラスされ、インテリア商品としての清潔感が増強されたものとなった。搬入設置等に特殊な仕様を要しない範囲での、比較的小サイズの家具類については、インテリア素材として受け入れられる可能性について十分確認できた。

4. 結 言

従来、既存の産地、企業では固有の素材や加工技術の領域に発想の基盤が置かれることが多いが、消費者の商品選択行為が個々の趣味趣向(ニーズ)にきわめて強く左右される今日、そのニーズを的確に把握し、適切でタイムリーな商品の開発がきわめて重要である。そのひとつの方法として、異種素材や利用技術の組合せによる商品の企画が有効であるといえる。その意味から地場産業の異業種融合組織である「いばらきクラフト協議会」の設立、事業運営の指導、支援を行ってきたところである。今回の試作は当メンバーである石材及び家具メーカーの協力を得た。さらに今回の試作品については上記協議会が主催した、つくば市内某デパートでの「いばらきクラフトの新しいかたち展」に参考出品し、好評を博した。今後、融合化商品として商品化や産地指導について指導を進める予定である。

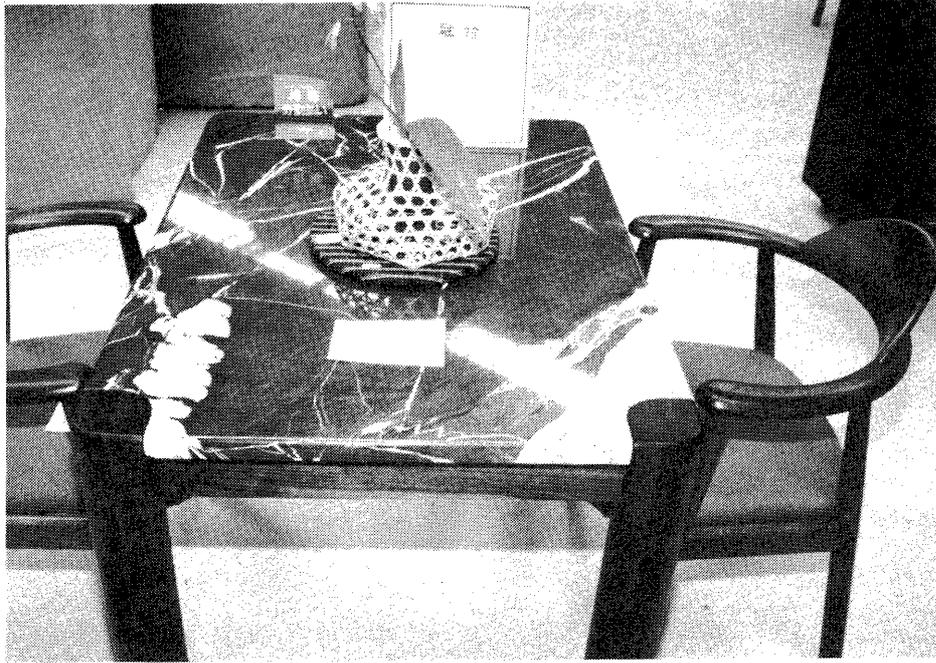


写真1 試作品



写真2 展示会風景